

イ 五十五  
ロ 五十二  
ハ 五十一

イ 五十五  
ロ 五十二  
ハ 五十一

二 五十三 六三〇四

本 卷九 十四

列王紀卷下

「アハバの死」のちモアザイラエラにらむけり。アハバの死にあらはるるの櫻の欄柵より  
 おちて病をおこせしかバ使を遣さんとして之にいひけるハバの使にわひて之に  
 の愈みや香を問べし。時にエホバの使ラシハエリヤにいひけるハバの使にわひて之に  
 言へし故等がエクロンの神バアルセブに問ふとてゆくハイスラエルに神なきがゆゑなるか。是により  
 てエホバかくいふ汝の登りし牀より下ることをかかるといふに。かれら之にいひけるハバの使の  
 たちアハバに返りければアハバ彼等に何故に返りしやといふに。かれら之にいひけるハバの使の  
 うきたりて我らに會ひわれらにいひけるハバの使にわひて之に王の所にかへり之にいふとてエホバ  
 けいひたまふなちエクロンの神バアルセブに問ふとて人を遣すハイスラエルに神なきがゆゑなるか  
 然ハ汝の登りし牀より下ることをかかるといふに。かれら之にいひけるハバの使の  
 きたりて故等に會ひ此等の言を汝らに告ぐるハバの使にわひて之に王の使にわひて之に  
 毛深き人にして腰に革の帯をむすび居たり彼にいひけるハバの使にわひて之に王の使にわひて之に  
 十人の長とてハバの使にわひて之に王の使にわひて之に王の使にわひて之に王の使にわひて之に  
 たりかれエリヤにいひけるハバの使にわひて之に王の使にわひて之に王の使にわひて之に  
 われもし神の人たらば火天より降りて汝と汝の五十人等を焼盡せしと火すなえち天より降りてかれど  
 の五十人等を焼盡せり。アハバの五十人の長とてハバの使にわひて之に王の使にわひて之に  
 にいひけるハバの使にわひて之に王の使にわひて之に王の使にわひて之に王の使にわひて之に

火天より降りて爾どなちの五十八を燬盡すべしと神の火すなと天より降りてかれらの五十八を  
 燬盡せり。されど第三の五十八の長どの五十八を遣せり第三の五十八の長のばりいたりてエリヤの  
 まへに跪きこれに願ひてひける人よ願くわが生命となちの僕なるこの五十八の生命をなえ  
 ちの目に貴重き者と見なしたまへ。視よ火天より降りて前の五十八の長二人どうの五十八を燬せり然  
 せわが生命をば故の目に貴重き者となしたまへ。爾にエホバの僕エリヤに云けるわかれとどもに下れか  
 れを思ふるごとくとなかれとエリヤすあて下起てかれとどもに下り玉の詩に至り。之にいひけるエホバ  
 かくいひたまふ汝エリヤの神バアルセバに問んとて使者を遣るハイスラエルにの言を問ふべき神  
 なぎやゆゑなるか是によりて汝の登りし牀より下ることなかるべし汝かならず死んぞ。彼エリヤの  
 言たるエホバの言の如く死けるが彼に子なかりしかバヨラムこれに代りて王となれり是ハユダの王ヨ  
 アバシの子ヨラムの二年にあたる。アハシヤのなしたる其餘の事業ハイスラエルの王の歴代志の書に記  
 載さるるにわらずや。

**經言** エホバ大風をもてエリヤを天に昇らしめんとしたまふ時エリヤハエリヤとどもにギルガル  
 より出往り。エリヤエリヤにいひけるハ請ふてよに止まれエホバわれをテラルに遣はしたまふより  
 エリヤにいひけるハエホバの魂ハ活く汝の魂ハ活くわれなちをばなれしは彼等つひにテラルに下れり。

テラルに在る預言者の徒エリヤの詩に出きたりて之にいひけるハエホバの今日なちの主をなちの  
 首の上よりどらんとしたまふを汝知やかれいふ然りわれ知り汝等驕すべし。エリヤかれにいひけるハ  
 エリヤと請ふ汝てよに止れエホバわれをエリヤに遣したまふなりとエリヤいふエホバの魂ハ活くなちの

一節五十六至一節七十二

四節

五節

六節

七節

八節

九節

十節

十一節

十二節

十三節

十四節

十五節

十六節

十七節

十八節

十九節

二十節

二十一節

二十二節

二十三節

二十四節

二十五節

二十六節

二十七節

二十八節

二十九節

三十節

三十一節

三十二節

三十三節

三十四節

三十五節

三十六節

三十七節

三十八節

三十九節

四十節

四十一節

四十二節

四十三節

四十四節

四十五節

四十六節

四十七節

四十八節

四十九節

五十節

五十一節

五十二節

五十三節

五十四節

五十五節

五十六節

五十七節

五十八節

五十九節

六十節

六十一節

六十二節

六十三節

六十四節

六十五節

六十六節

六十七節

六十八節

六十九節

七十節

七十一節

七十二節

七十三節

七十四節

七十五節

七十六節

七十七節

七十八節

七十九節

八十節

八十一節

八十二節

八十三節

八十四節

八十五節

八十六節

八十七節

八十八節

八十九節

九十節

九十一節

九十二節

九十三節

九十四節

九十五節

九十六節

九十七節

九十八節

九十九節

百節

魂ハ活く我なちを離れどかれらエリヤに語りて彼に  
 いひけるハエホバの今日なちの主をなちの首の上よりどらんとしたまふを汝知るやエリヤ言ふ然  
 り知り汝ら驕すべしとエリヤまたかれにいひけるハ請ふてよに止れエホバわれをヨルダにつかはし  
 たまふありとかれいふエホバの魂ハ活くなちの魂ハ活くわれなちをばなれしは二人進ゆくに預言者の徒  
 五十八人ゆきて遂に立て望めり彼ら二人ヨルダの濱に立けるがエリヤの外套をとりて之を巻き水  
 をうちけるに此旁と彼旁にわかれれば二人乾ける土の上をわたり。涉りける時エリヤエリヤに  
 いひけるハ我が取れてなちを離るる前に汝わが汝になすべきことを求めよエリヤいひけるハなちが  
 の魂の二の分の我にをらんことを願ふ。エリヤいひけるハ汝難き事を求む汝もわが取れてなちを離  
 るるを見よ。この事なちにならん云からず。此事なちにならば。彼ら進みながら語れる時火の車と火  
 の馬あらされて二人を隔てたり。エリヤの大風によりて天に昇れり。エリヤ見てわが父わが父イストラ  
 ムの兵車よの騎兵よと叫びしが再びかれを見ざり。是に於いてエリヤその衣をとりて之を二岸に  
 裂き。エリヤの身よりおちたるその外套をとりあげ走りてヨルダの岸に立ち。エリヤの身よりおちた  
 る外套をとりて水をうちエリヤの神エホバのいづくにいませやと言ひ而して。已も水をうちけるに。此旁  
 と彼旁に分れたれば。エリヤはも渡れり。エリヤに在る預言者の徒。對岸にありて彼を見て言けるハ  
 エリヤの魂エリヤの上にとまるとかれら来りてかれを逃へて。前に地に伏て。かれにいひけるハ僕  
 等に勇力者五十八人あり。請ふかれらをして往て。あなた方の主を尋ね。めよ。恐るハエホバの魂かれを曳あけて  
 之れを或山か。或谷に放ちし。からんと。エリヤ遺す。あかれと言けれども。かをら彼の魂を。そのでに強けれハ

一節五十八至一節八十三

九節

十節

十一節

十二節

十三節

十四節

十五節

十六節

十七節

十八節

十九節

二十節

二十一節

二十二節

二十三節

二十四節

二十五節

二十六節

二十七節

二十八節

二十九節

三十節

三十一節

三十二節

三十三節

三十四節

三十五節

三十六節

三十七節

三十八節

三十九節

四十節

四十一節

四十二節

四十三節

四十四節

四十五節

四十六節

四十七節

四十八節

四十九節

五十節

五十一節

五十二節

五十三節

五十四節

五十五節

五十六節

五十七節

五十八節

五十九節

六十節

六十一節

六十二節

六十三節

六十四節

六十五節

六十六節

六十七節

六十八節

六十九節

七十節

七十一節

七十二節

七十三節

七十四節

七十五節

七十六節

七十七節

七十八節

七十九節

八十節

八十一節

八十二節

八十三節

八十四節

八十五節

八十六節

八十七節

八十八節

八十九節

九十節

九十一節

九十二節

九十三節

九十四節

九十五節

九十六節

九十七節

九十八節

九十九節

百節



集めてその場に備へしが、朝はやく興い、水の上に日昇り、而て對面の水血の如くに赤かりければ、

モアブ人これを見て、いひける、これ乃ち血なり、王たちも戰ひて死にたるならん、互に相撃たるあるべし、然

ばモアブと擄取に行けど、而してモアブ人イサマエルの陣營に至るに、イサマエル人起てこれを撃たれば、

すなはちその前より逃ばし、是に於いてイサマエル人進みてモアブ人を撃て、その國にいり、その邑々

を撃ち、各々石を諸の善地に投て、これに填じ、水の井をこどく、壑ぎ佳樹をこどく、斫たふむ、唯キル

ハラセマにその石をのこせしのみなるに至る、但し石を投るもの周りにあるきて、これを撃り、モアブ王戰闘

の手いたくして、當り、がたきを見て、劍を抜く者七百人をひき、めて、エホシ王の所にまで衝き、いたらん、

當途に果さばりしかば、巴の位を繼へき、その長子をとりて、これを石垣の上にさし、げて、燔祭となしたり、是

に於てイサマエルに大なる憤怒、おこり、ぬ彼等、すあさちかれをすて、その國に歸れり、

【第四節】 稍言者の徒の妻の一人の婦人、エリシャに呼ばりて、いひける、汝の僕なるわが夫死り、な

を、ちの僕のエホバを畏れし、そのり、汝の知ること、ならん、今債主きたりて、わが二人の手をとりて、奴僕と

なさん、とせよ、エリシャ之にいひける、われな、汝の爲に何をなすべきや、汝の家に如何なる物あるか、わ

れに告よ、彼がいひける、僕少の抽の、は、わが家の、に、有ものなし、彼のいひける、往て、外より、隣の人々よ

り、書を借よ、空たる書を借るべし、少許を借るな、かれ、而して、な、汝の、子等、ども、に、戸の、内に、閉、て、

も、の、す、べ、の、書、に、油、を、つ、ぎ、て、の、盈、る、と、の、者、を、ど、の、け、お、く、べ、し、婦、人、す、お、は、ち、彼、を、離、れ、て、去、り

る、子、等、と、も、に、戸、の、内、に、閉、て、も、り、子、等、の、も、ち、き、た、る、器、に、油、を、つ、ぎ、た、り、しか、器、の、み、な、盈、た、る、と、さ、う、の

子にむかひ、向われ、器をもちきたれ、といひけるに、器ハもは、あらず、といひ、たれば、その、抽す、な、と、止、る、

レ 聖十六節  
レ 聖十七節  
レ 聖十八節  
レ 聖十九節  
レ 聖二十節  
レ 聖二十一節  
レ 聖二十二節  
レ 聖二十三節  
レ 聖二十四節  
レ 聖二十五節  
レ 聖二十六節  
レ 聖二十七節  
レ 聖二十八節  
レ 聖二十九節  
レ 聖三十節  
レ 聖三十一節  
レ 聖三十二節  
レ 聖三十三節  
レ 聖三十四節  
レ 聖三十五節  
レ 聖三十六節  
レ 聖三十七節  
レ 聖三十八節  
レ 聖三十九節  
レ 聖四十節  
レ 聖四十一節  
レ 聖四十二節  
レ 聖四十三節  
レ 聖四十四節  
レ 聖四十五節  
レ 聖四十六節  
レ 聖四十七節  
レ 聖四十八節  
レ 聖四十九節  
レ 聖五十節

是に於いて、その婦神の人に、いたりて、かく、告、げ、れ、ば、かれ、い、ふ、往、て、油、を、ら、り、て、その、負、債、を、つ、く、の、ひ、ろ、の、餘

分をもて、汝、の、子、等、計、を、な、す、べ、し、と、一、日、エ、リ、シ、ヤ、に、ゆ、き、し、に、其、所、に、一、人、の、大、なる、婦、人、

ありて、あきりに、これに、食、を、す、と、め、た、れ、ば、彼、か、し、て、を、過、る、毎、に、う、て、入、て、食、を、な、せ、り、茲、に、その、婦、人、夫、に、つ

いひける、視よ、此の、ねに、われらに、過る、人、の、我、を、見、る、に、神、の、聖、き、人、なり、請、ふ、小、き、室、を、石、垣、の、上、に、つ

く、う、こ、に、臥、床、と、案、と、榻、と、燭、臺、を、か、れ、の、た、め、に、備、へ、ん、彼、れ、ら、に、至、る、時、に、う、こ、に、入、る、べ、し、と、か、く、て

の、ち、あ、る、日、エ、リ、シ、ヤ、の、こ、に、至、り、う、の、室、に、入、て、う、こ、に、臥、た、り、しか、その、僕、ガ、ハ、ン、に、む、か、ひ、彼、の、モ、ナ、ミ、人

を、召、き、た、れ、と、い、へ、り、彼、か、の、婦、人、を、召、た、れ、ば、の、前、お、き、た、り、て、立、つ、に、エ、リ、シ、ヤ、ハ、ん、に、い、ひ、け、る、に、彼、に

か、く、言、へ、汝、か、く、戀、に、我、ら、の、た、め、に、意、を、用、う、汝、の、た、め、に、何、を、な、す、べ、き、や、王、ま、た、軍、勢、の、長、に、故、の、こ、と、を

告、ら、れ、ん、と、を、望、む、か、と、彼、答、へ、て、わ、れ、の、中、に、を、あ、り、と、い、ふ、エ、リ、シ、ヤ、い、ひ、け、る、に、然、ら、ば、か、れ、の

た、め、に、何、を、な、す、べ、き、や、ハ、ん、答、へ、け、る、に、誠、に、か、れ、の、子、な、く、その、夫、の、老、た、り、と、是、に、お、い、て、エ、リ、シ、ヤ、か、れ

を、召、さ、し、い、ひ、け、れ、ば、これ、を、呼、び、來、り、て、戸、口、に、立、た、れ、ば、エ、リ、シ、ヤ、い、ふ、明、る、年、の、今、頃、汝、子、を、抱、け、お、ら、ん、彼、い

ひ、け、る、に、い、な、わ、が、主、神、の、人、よ、な、な、お、の、婢、を、お、ぎ、き、た、ま、ふ、な、か、れ、と、か、く、て、婦、つ、ひ、に、孕、て、明、る、年、に、い、た

り、て、エ、リ、シ、ヤ、の、い、へ、る、う、の、頃、に、子、を、生、り、う、の、子、育、ち、て、あ、る、日、別、種、人、の、所、に、い、て、ゆ、き、て、その、父、に、い、た、り

しが、父、に、わ、が、首、を、と、い、ひ、た、れ、と、父、少、者、に、彼、を、母、の、も、と、に、負、ゆ、け、と、言、り、す、な、と、ち、これ、を、負、て、母、に

い、た、り、し、に、午、ま、で、母、の、膝、に、坐、り、居、て、遂、に、死、に、死、た、れ、ば、母、の、ぼ、り、ゆ、き、て、これ、を、神、の、人、の、臥、床、の、上、に、置、き、て、これ

を、と、ち、て、め、て、出、で、う、の、夫、を、よ、び、て、い、ひ、け、る、に、請、ふ、一、人、の、僕、と、一、頭、の、驢、馬、を、我、に、つ、か、は、せ、我、神、の、人、の、許

には、せ、ゆ、き、て、歸、ら、ん、と、夫、い、ふ、何、故、に、汝、に、今、日、か、れ、に、い、た、ら、ん、と、す、る、や、今、日、の、朔、日、に、も、あ、ら、ず、安、息、日、に

レ 聖三十一節  
レ 聖三十二節  
レ 聖三十三節  
レ 聖三十四節  
レ 聖三十五節  
レ 聖三十六節  
レ 聖三十七節  
レ 聖三十八節  
レ 聖三十九節  
レ 聖四十節  
レ 聖四十一節  
レ 聖四十二節  
レ 聖四十三節  
レ 聖四十四節  
レ 聖四十五節  
レ 聖四十六節  
レ 聖四十七節  
レ 聖四十八節  
レ 聖四十九節  
レ 聖五十節  
レ 聖五十一節  
レ 聖五十二節  
レ 聖五十三節  
レ 聖五十四節  
レ 聖五十五節  
レ 聖五十六節  
レ 聖五十七節  
レ 聖五十八節  
レ 聖五十九節  
レ 聖六十節  
レ 聖六十一節  
レ 聖六十二節  
レ 聖六十三節  
レ 聖六十四節  
レ 聖六十五節  
レ 聖六十六節  
レ 聖六十七節  
レ 聖六十八節  
レ 聖六十九節  
レ 聖七十節  
レ 聖七十一節  
レ 聖七十二節  
レ 聖七十三節  
レ 聖七十四節  
レ 聖七十五節  
レ 聖七十六節  
レ 聖七十七節  
レ 聖七十八節  
レ 聖七十九節  
レ 聖八十節  
レ 聖八十一節  
レ 聖八十二節  
レ 聖八十三節  
レ 聖八十四節  
レ 聖八十五節  
レ 聖八十六節  
レ 聖八十七節  
レ 聖八十八節  
レ 聖八十九節  
レ 聖九十節  
レ 聖九十一節  
レ 聖九十二節  
レ 聖九十三節  
レ 聖九十四節  
レ 聖九十五節  
レ 聖九十六節  
レ 聖九十七節  
レ 聖九十八節  
レ 聖九十九節  
レ 聖百節

レ 聖百零一節  
レ 聖百零二節  
レ 聖百零三節  
レ 聖百零四節  
レ 聖百零五節  
レ 聖百零六節  
レ 聖百零七節  
レ 聖百零八節  
レ 聖百零九節  
レ 聖百一十節  
レ 聖百一十一節  
レ 聖百一十二節  
レ 聖百一十三節  
レ 聖百一十四節  
レ 聖百一十五節  
レ 聖百一十六節  
レ 聖百一十七節  
レ 聖百一十八節  
レ 聖百一十九節  
レ 聖百二十節  
レ 聖百二十一節  
レ 聖百二十二節  
レ 聖百二十三節  
レ 聖百二十四節  
レ 聖百二十五節  
レ 聖百二十六節  
レ 聖百二十七節  
レ 聖百二十八節  
レ 聖百二十九節  
レ 聖百三十節  
レ 聖百三十一節  
レ 聖百三十二節  
レ 聖百三十三節  
レ 聖百三十四節  
レ 聖百三十五節  
レ 聖百三十六節  
レ 聖百三十七節  
レ 聖百三十八節  
レ 聖百三十九節  
レ 聖百四十節  
レ 聖百四十一節  
レ 聖百四十二節  
レ 聖百四十三節  
レ 聖百四十四節  
レ 聖百四十五節  
レ 聖百四十六節  
レ 聖百四十七節  
レ 聖百四十八節  
レ 聖百四十九節  
レ 聖百五十節  
レ 聖百五十一節  
レ 聖百五十二節  
レ 聖百五十三節  
レ 聖百五十四節  
レ 聖百五十五節  
レ 聖百五十六節  
レ 聖百五十七節  
レ 聖百五十八節  
レ 聖百五十九節  
レ 聖百六十節  
レ 聖百六十一節  
レ 聖百六十二節  
レ 聖百六十三節  
レ 聖百六十四節  
レ 聖百六十五節  
レ 聖百六十六節  
レ 聖百六十七節  
レ 聖百六十八節  
レ 聖百六十九節  
レ 聖百七十節  
レ 聖百七十一節  
レ 聖百七十二節  
レ 聖百七十三節  
レ 聖百七十四節  
レ 聖百七十五節  
レ 聖百七十六節  
レ 聖百七十七節  
レ 聖百七十八節  
レ 聖百七十九節  
レ 聖百八十節  
レ 聖百八十一節  
レ 聖百八十二節  
レ 聖百八十三節  
レ 聖百八十四節  
レ 聖百八十五節  
レ 聖百八十六節  
レ 聖百八十七節  
レ 聖百八十八節  
レ 聖百八十九節  
レ 聖百九十節  
レ 聖百九十一節  
レ 聖百九十二節  
レ 聖百九十三節  
レ 聖百九十四節  
レ 聖百九十五節  
レ 聖百九十六節  
レ 聖百九十七節  
レ 聖百九十八節  
レ 聖百九十九節  
レ 聖百一十節

六百二十九



九 每五の八千八百

三 每三〇二廿二〇

二 每三〇六

五 每百四十一號

一 每百三十五

四 每二〇七三〇

三 每六六

六 每七〇二七

九 每六〇十

下五〇五

二五

跟十ヲラント金六千および衣服十襲をたづざへ、イスマエルの王にその書をもちゆけりとの文に曰く、この書汝にいたらば禱よ我わが臣ナアマツをなんがに遣はせるなり。この汝にその癩病を瘥されんがためあり、イスマエルの王の書を讀み衣を裂ていへ、我神余らん争が殺すことをなし生すことをあしめん。然るに此人なす癩病の人を我につかはしてそれを瘥さめんとするや、然バ請ふ汝等彼が如何に我に争を求むるかを見て知れど、茲に神の八エリシヤイスマエルの王がその衣を裂たることをきく玉に言遣しける。汝何とて汝の衣をききしや、彼をわがもとにいたらしめよ。然バ彼イスマエルに預言者のあることを知にいたるべし。是に於いてナアマツの馬と車とをえんがへ來りてエリシヤの家の門に立けるに、エリシヤ使をこれに遣して言ふ故ゆきて身をヨルダヅに七たび洗へ然バ汝の肉本にかへりて汝入清く爲べし。とナアマツ怒りて去り言ける、我ハ彼がならず我もとにひきたりて立ちろの神エホバの名を呼てろ。その所に手を動して癩病を瘥すならんと思へり。ダマスコの河アバナシヨルバハルイスマエルのすべての河水にまざるにわらずや我でこれらに身を洗ふて清まることを得ざらんや、是乃ち身をめぐらして怒りて去る。時にその僕等近よりてこれにひける、我父預言者なちに大なる事をなせど命するとも、汝のろれを瘥ざらんや、現て彼んち身に洗ひて清くなれどいふをや。是に於いてナアマツ下りゆきて神の人の言のどくにて七たびヨルダヅに身を洗ひしに、その肉本にかへり嬰兒の肉の如くになりて清くなり。かれすなはら、その從者どもに神の人の言にかへりきたりて、その前に立ていへ、我のイスマエルの魂は、あは全地に神あしど知る。然バ請ふ、僕より禮物をうけよ。エリシヤひける、わが事ふまづる。エホバハ活く、皆て禮物をうけしと、かれ強て之を受しめん。と云たれども、茲にこれを辭したり。ナアマツひひける、ハ

然バ請ふ、驃馬に二駄の土を僕にどらせし、僕に今よりのち他の神に、燔祭をも、祭品をもさくげし。して只エホバにのみ献げんとす。ねがはくハ主の事につきて、僕をゆるむたまへ、即ちわが主君リシモンの宮にひりうににて、崇拜をかしてわが手に倚ることあり。また我リシモンの宮にありて、身をかまむることあらんわがリシモンの宮に、あひて身をかむる時に、願くハエホバの事につきて、僕をゆるしたまへ。とエリシヤ彼にかんぢ安んじて去れど、いひければ、彼エリシヤをばなれて、少しく進みゆきけるに、神の人エリシヤの僕、シハバひひける、ハ吾が主人ハ此スアラハナアマツをいたはりて、彼が手に携へきたれるものを受ざりしが、エホバハ活く、われ彼のあをを遣かけて、彼より少く物をとらん。とシハバすなはちナアマツのあをを、あひ行くに、ナアマツハおのれのあをに走り來る者あるを見て、車より下りてこれを迎へて、皆平安やと言ふに、かれ言ける、ハ皆平安し、わが主我を遣して、いはしむ、今モフライヤの山より、預言者の徒ある二人の少者わが詩に來れり。請ふ、汝がこれらに銀一タラントと衣二襲をあへよ。とナアマツひひける、ハ望むらくハ二タラントを取れど、汝がこれを強ひ銀二タラントを二の袋にいれ、衣二襲を添て二人の僕に負せたり。彼等之れをシハバの前に負きたりしが、彼岡に至りしと、さ之をかれらの手より取て、室のうちにをさめ、かれらに取ちて去しめ、而して入て、その主人のまへに立つに、エリシヤこれにひひける、ハシハバ、何處より來りしや、答へていへ、僕ハ何處にもゆかず。エリシヤひひける、ハその人、吾車をはなれ來りて、なんがを迎へし、時にわが心、其處にわらざりしや、今金のうけ衣をうけ、橄欖園、葡萄園、羊牛、僕婢をうくべき、賜ふらんや。然バナアマツの癩病ハ、なんがなにつき、汝の子孫におよびて、限なからん。と彼その前より、退ぐくに癩病發して雪のどくになりぬ。